

第182回 関西広域連合委員会

日時：令和7年10月23日（木）

場所：ホテルグランヴィア和歌山 6階 ル・グランA・B

開会 10時44分

○三日月広域連合長 それでは、ただいまから第182回の広域連合委員会を開催させていただきます。

大阪・関西万博、お世話になり、おかげさまで盛況のうちに閉幕をいたしました。そのレガシーをまたしっかりこの関西広域連合管内に波及させていきたいと思っておりますし、新政権が発足いたしました。奈良県から内閣総理大臣が誕生ということでございますし、日本維新の会との新たな連立政権ということになりましたので、様々な連携策を模索・追求してまいりたいと存じます。

それでは今回も和歌山県の皆様方にお世話になりました。冒頭、開催地の和歌山県知事、宮崎委員から御挨拶をいただきたいと思います。

○宮崎委員 和歌山県に再び、ようこそお越しいただきました。8月28日に引き続きまして来ていただいて、本当に歓迎をいたしたいと思えます。

10月13日に万博が成功裏のうちに閉幕をいたしまして、大阪府さん、大阪市さんをはじめ、関係者の皆様の御尽力に感謝をいたしたいと思えます。また、森館長さん先頭に、本部事務局の皆様も関西パビリオンの運営で大変御苦労されたと思っております。当県としても大変お世話になりまして、ありがとうございました。関西パビリオンの和歌山WEEKにおいて、5月6日でありますが、三日月広域連合長や皆様と一緒に神輿を担いだことが非常に印象に残っております。応援をしていただいてありがたいと思っております。それから万博閉幕後、最初の委員会ということで、広域連合長のコメントにもあったとおり、新たなスタートが切られたわけでありまして。後ほど、JR西日本の相談役であります関西経済連合会の真鍋副会長がお見えになりますが、本

日、この会場、ホテルグランヴィアはJR西日本グループの和歌山ターミナルビル株式会社が運営をされております。JR和歌山駅は、和歌山の中心的なターミナルでありまして、和歌山の玄関口ということになります。駅は交通網の結節点というだけでなく、人、まち、コミュニティがつながる場所であります。今回の議題にある広域リージョン連携のような民間と行政がつながること、それから世界や未来に向かって進んでいくということが、非常にふさわしい場所であるのかなと自負をしております。万博を通じて得たつながりや経験をレガシーとすることはもちろんのこと、次世代の関西をつくる、そのための努力を惜しむことなく、ともに歩んでまいりたいと考えております。

結びになりますが、近畿ブロック知事会議も含めると、本日、大変長丁場となりますが、よろしくお願いをしたいと思います。政令市の皆様、もしくは午前中で帰られる皆様もあるかと思いますが、お帰りの際には、是非和歌山ラーメンとか、めはり寿司といったものがございますので、是非堪能していただいて、少しでも和歌山の思い出を持ち帰っていただけたらなと思いますので、よろしくお願いします。本日の議論が有意義なものになることを祈念いたしまして、御挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございます。よろしくお願いします。

(拍手)

○三日月広域連合長 ありがとうございました。元JR西日本の社員の私が言わないといけないようなことまで含めて御挨拶をいただきました。ありがとうございました。

それでは、早速議題を進めたいと思います。大阪・関西万博の関西パビリオンの状況等につきまして、振り返りも含めて、また今後の展開も含めて、議題といたしまして、こちらは「大阪・関西万博 関西パビリオン企画委員会」として開催いたしますので、福井県さんにもオンラインで御参加いただいております。

まず、事務局から御説明をお願いいたします。

○本部事務局 資料1を御覧ください。関西パビリオンの状況について御報告をい

たします。1枚ページをめくっていただきまして、別紙1でございます。おかげをもちまして、関西パビリオンは10月13日に184日間を走り抜くことができました。ありがとうございます。184日間の来館者数ですが、こちらに記載のとおり148万7,393人の来館者数を数えることができました。展示エリア、多目的エリアと別途設営しました納涼テントを足し合わせた数ではございます。予約は全て満杯になったという状況でございます。

次のページをめくっていただきたいと存じます。閉幕日のイベントの様子でございます。御存じのとおり、148万人の来館セレモニーを実施をいたしました。これには各知事さんにお越しをいただいたところでございます。それから21時までの間に、来館者のお見送りのセレモニーもしておりました。併せて、博覧会協会主催のフラッグパレードも実施をしたところでございます。

さて、パビリオン終了後の今後の予定でございますが、まずは万博レガシーについては、関西パビリオンの記録集の作成に着手をしているところでございます。それから、関西周遊観光が狙いの我々のパビリオンでございますので、まずは関西パビリオンのいわゆるゲートウェイ機能の効果について、各府県の実績成果の取りまとめを行うとともに、できますれば、効果の測定のために、何らかの調査研究ができないかという企画をしているところでございます。これにつきましては、またまとまりましたら御報告いたします。

それから、お客様から極めて関心の高く、会期中に人気を博しました、公式スタンプにつきましては、閉幕後も継続して各府県の観光地等において一般に提供することといたします。これについては、後ほど御説明をいたします。

それから最終でございますが、パビリオンの清算に向けまして、パビリオンの解体・撤去作業を年度内には完了させ、次年度以降には決算・清算等の財務整理に当たってまいります。パビリオン本体につきましては、恐らくはこの12月末に地上から姿を消すという方向で今進めているところでございます。

次ページを御覧ください。スタンプラリーについて、極めて関心が高うございますので、御報告をいたします。まずは、パビリオン館内にこれまで設置をしておりました、関西パビリオンの公式スタンプにつきましましては、会期後も年度内は最低限という形で各府県において設置をしてみたいです。各府県のこの設置場所にお越しいただければ、館内にあったスタンプを押していただける状況にしてみたいです。なお、徳島県につきましましては、資料には令和7年12月1日から開始という予定で書いてございますが、10月27日から開始できる方向で今調整をいただいています。場所であったり、設置期間、そしてその場所における営業時間等については、こちらに記載のとおりでございます。

それから、もう一枚めくっていただきますと、各会場のサテライト会場と称します、各府県に置いておりました公式スタンプにつきましても、会期終了後に全て終了させるというつもりでございましたが、各府県において、以下のとおり、少なくとも年度末までの間は設置を継続したいと考えております。設置場所についても、こちらに記載のとおりでございます。館内のスタンプと、このサテライトスタンプは、デザインも違いますので、これらも含めてのスタンプラリーが継続できるという状況でございます。

それから最終のページでございますが、関西パビリオンの公式スタンプラリーの中で、関西パビリオン参加9府県のオールスタンプラリーをやりたいと考えております。関西パビリオンの中では9府県分のスタンプが押せる状態で、これに向けてたくさんの方が予約をし、お越しいただきましたが、この9府県分のスタンプのレプリカを準備し、各府県に持ち回っていただこうと考えておりました、企画の第1弾としまして、年内には、まずは滋賀において、全国障害者スポーツ大会の会場において設置をさせていただき、その後は和歌山市立図書館、奈良県立万葉文化館、そして徳島県庁舎、ここから先は各府県との調整の中で年度内に順次展開をしてみたいですが、こういった形で関西パビリオンに御来館いただけなかった皆様にもスタンプのレプリカ

を押していただけるようにしてまいりたいと考えております。

以上でございまして、今後レプリカ等に関する情報は広域連合のX（エックス）やWEBパビリオンにおいて、順次発信をしてまいりたいと考えております。

引き続き、関西WEEKを開催しましたので、これについての御報告をいたします。

資料の2を御覧ください。9月29日から1週間万博会場で開催しました関西WEEKの概要でございます。右下のとおり、イベント限定スタンプも作成をいたしました。会期中には、約3万人の方に御来場をいただいたところでございます。

2ページ目は、関西WEEKで行われましたプログラムの一部の状況でございます。

説明は以上でございます。

○三日月広域連合長 ありがとうございます。おかげさまで、関西パビリオンも大変好評であったということで、その概要と、そしてその後の展開等につきまして御報告・御案内がございました。何か皆様方で御意見や御報告、コメントはございますでしょうか。

どうぞ、鈴木副委員。

○鈴木副委員（京都府） それでは、京都府から観光、それから文化に関します分野イベントにつきまして、関西WEEKについて資料2で御報告させていただいておりますけれども、少し補足して御説明をさせていただきます。まず観光分野につきましては、9月30日、10月1日の2日間にわたりまして、観光PRイベントを実施いたしました。ポップアップステージ南におきまして、関西出身のアーティスト6名の方によるライブペインティングやラジオDJによる音楽、トークライブなどを開催いたしました。永藤委員にも当日会場にお越しいただきまして、関西各地の魅力も来場者に発信をさせていただいたところでございます。また、フェスティバルステーション内のブースにおきましても観光PRを実施いたしまして、関西の中で今後行きたいところなどのWebアンケートも行いまして、回答者には抽選で関西各地のノベルティを配付するなどの対応をさせていただいたところでございます。両会場ともに2日間、それぞれ約

3,000名の方々に御来場もいただきまして、大変盛況となりました。2日間限定のオリジナルスタンプの列に並んでいる方々に、関西各地の魅力をお伝えするなど、効果的なPRができたものと思っております。

また、文化分野につきましては、10月5日にポップアップステージ南におきまして、文化発信イベントとしてのKANSAI伝統文化EXPOを開催いたしました。伝統芸能団体による実演、更にお祭り講座などを通して、来場者が踊りや獅子舞などに頭をかまれて、無病息災を願う参加型プログラムを実施いたしまして、関西の魅力も発信したところでございます。万博閉幕後も、関西各地への周遊促進に向けまして取り組んでまいりたいと考えております。

○三日月広域連合長 ありがとうございました。

どうぞ、齋藤委員。

○齋藤委員 万博、本当に御苦労さまでございました。関西パビリオンの開設、設置に当たりましては、森館長様をはじめ、調整に御苦労されたこともあったと思いますし、それぞれの構成府県市で特色が違うところもある、それが関西のいいところでもあるのですが、それを一つのパビリオンとしてまとめていかれるということについて、本当に御苦労に対して敬意と感謝を、スタッフの皆様にも御礼を、申し上げたいと思っています。万博期間中は兵庫県ゾーンでの発信とともに、兵庫県もフィールドパビリオンであったり、県立美術館にサテライト的なブース、それから尼崎フェニックス事業用地のパークアンドライド駐車場の横に「楽市楽座」ということでイベント、マルシェを午後4時から9時ぐらいまで開催させていただいて、兵庫県にできるだけお客様が来ていただくという仕掛けをつくらせていただいて、前半から後半にかけて、大変盛り上がってきたというところもありますし、併せて、関連イベントとしては、阪神淡路大震災から30年という節目になりますので、広域連合長にもお越しいただきまして、創造的復興サミットを石川県や東北の3県の知事さんなどにも来ていただいて開催しましたし、トキとコウノトリの野生復帰に関しては、新潟県知事と連携した

り、徳島県さんと渦潮の関係でシンポジウムを開催したり、様々なイベントなども実施させていただいたというところでございますけれども、大事なのは、資料1でもありますとおり、やはりレガシーをしっかりと検証してつないでいくと、特にパビリオンの移設等もハードレガシーとしてありますけれども、大事なのはやはりソフトレガシーですね。誘客にどのように寄与したのか、それとも課題があったのか、この取組を通じた人と人とのネットワークであったり、つながりをしっかりと検証し、そしてレガシーとして次につないでいくということが大事だと思いますので、是非しっかりと検証していただきたいと思いますし、兵庫県でも有識者を入れた検証の委員会の設置を予定していますので、是非連携しながら検証をしていく、そしてレガシーとして何が残ったのかということをしっかりまとめていくということが大事だと思いますので、よろしくをお願いします。

○三日月広域連合長 ありがとうございました。

どうぞ、宮崎委員。

○宮崎委員 森館長、本当にお疲れさまでした。ありがとうございました。関西広域連合の関西WEEKですけれども、農林水産部で出展をさせていただいたので、その説明をちょっとしたなと思います。9月29日から10月5日までで大体約3万人の人出がありまして、広域産業振興局の農林水産部では、「KANSAI IPPIN EXPO」の名前で各構成府県市が誇る農林水産物や食文化などを日本のポップカルチャーであるマンガで御紹介をいたしました。マンガを見て回りながら答えを探すクイズラリーには、6日間で延べ1万3,897人が参加して、同時に行ったアンケートによる満足度調査では、約89%の皆様に御満足をいただいたということでもあります。この万博を通じて、各地の様々な世代の皆様に関西の農林水産物の魅力への多くの気づきや共感を生み出すことができたのではないかなと思っています。大変有意義な出展だったので、ちょっと御報告までしたいと思いました。ありがとうございます。

○三日月広域連合長 ありがとうございました。

志田副委員、どうぞ。

○志田副委員（徳島県） 今回の万博を通じてパビリオンもあるのですが、いろいろな催事関係で改めて阿波おどりの親和性といいますか、多くの世界各国の方に共感いただける文化だということは再認識したところで、今後更に海外との結びつき、阿波おどりをモチーフとした結びつきを深めていきたいと思ひますし、そういった取組を広域連合の観光誘客の面でも生かせていけたらなと思ひております。よろしくお願ひします。

○三日月広域連合長 ありがとうございます。踊り、祭り、フェスティバル、とても人気でしたね。

どうぞ、渡邊副委員。

○渡邊副委員（大阪府） 改めて近畿ブロック知事会の方でもお礼を申し上げますけども、本当に関西広域連合の構成府県市並びに広域連合の皆様におかれましては、事前の機運醸成の段階から、パビリオンでの出展、また様々な催事、たくさんのイベントの開催まで、公式式典等の参加も含めまして、本当に大変お世話になりました。ありがとうございました。おかげさまで、いろいろ最初はかなり厳しい状況もあったのですが、結果的に非常に盛り上がりまして、2,900万人を超える方々が来場されました。赤字も危惧されたのですが、収支も黒字になったということで、成功裏のうちに、本当に惜しまれながら184日間の会期を終えることができました。皆様に盛り上げていただいたおかげだと本当に感謝をしております。ありがとうございました。

また、経済面でも様々な交流があったかと思ひます。引き続き連携して取り組んでまいりたいと思ひますので、どうぞこれからもよろしくお願ひいたします。本当にありがとうございました。

○三日月広域連合長 ありがとうございました。山本副委員どうぞ。

○山本副委員（大阪市） 本当に皆様にはお世話になり、ありがとうございました。2,500万人を超える方々にお越しいただいたということですが、特に広域連合のエリ

アからのお客様が、本当にたくさん御来場いただいたと思います。それぞれの自治体でも独自に戦略的な広報もしていただいたおかげであり、重ねて感謝を申し上げます。これを一過性のイベントに留めず、次の世代、未来へとつないでいくことがこれからのミッションになっていくと思いますので、引き続きよろしくお願いいたします。

○三日月広域連合長 ありがとうございました。

開催決定をしたときはどうなるかと思ったこともありました。その後コロナ禍もありましたので、「大阪万博」ではなくて、「大阪・関西万博」にしようということ主体的に関わられたこと、また、関西パビリオンを出展し、我々も参画することができたこともとてもよかったんじゃないかなと思っております。当時、決まったときには井戸広域連合長、その後、仁坂広域連合長がこのことを牽引してこられましたので、改めてそのことにも思いを致したいなと思いますし、先ほどの齋藤委員からもありましたように、ソフトレガシーとして共有し、今後に継承していくということでありますとか、ゲートウェイ機能を申し上げておりましたので、それがどの程度発揮できたのかということは、今後のまた様々な広域観光周遊等の教訓にもなろうかと思っておりますので、こういったことをまた皆で共有していきたいなと思っております。多様でありながら一つという、まさに関西広域連合もそういった一つであり、一つ一つということを追求しておりますので、是非こういった点も今後のレガシーとして、また充実・発展させていければいいなと思っております。

スタンプが思いのほか人気でございまして、名残惜しく、もしくはそれぞれの地域でまた御活用いただくということも企画されているようでございますし、その第1弾が今週末から行われます、滋賀県での障害者スポーツ大会の会場において、9府県全てのスタンプが押せるという企画になっておりますので、またこの点も併せて御案内し、御参加いただければと存じます。

福井県さんも特によろしゅうございますか。恐竜も大変な人気でございました。是非また皆で連携して取組を進めていくことといたします。

それでは、この内容は以上、御確認いただいたといたしまして、議題を終了し、続いて、協議事項に入らせていただきます。まず、「関西広域連合会計年度任用職員の育児休業等に関する条例の一部改正（案）について」を議題とし、本部事務局から御説明をお願いいたします。

○本部事務局　資料３をお願いいたします。本件は、11月20日開催予定の広域連合議会に条例案の提案を予定をしております。

まず最初に、１の「制定の理由」でございますが、地方公務員の育児休業等に関する法律の一部改正に伴い、関西広域連合における会計年度任用職員を対象とする育児休業制度の拡充を図るため、関西広域連合会計年度任用職員の育児休業等に関する条例の一部を改正するものでございます。

続きまして、２の「改正内容」でございますが、現行の制度におきましては、育児のための部分休業につきましては、勤務時間の始め、または終わりにおいて、１日に２時間を超えない範囲において取得することができることとしております。この部分休業を改正におきまして、①でございますが、１日につき２時間を超えない範囲内で勤務しない部分休業、これは従来型のものでございます。②、１日につき２時間以上勤務しない部分休業に区分をいたしまして、②につきましては、１日単位での取得もできることとしております。そして、①、②のいずれかを選択をすることができることといたします。また、いずれの部分休業につきましても、勤務時間の始め、または終わりに限らず、どの勤務時間でも取得することができることといたします。

続きまして、３の施行日でございますが、公布の日からの施行といたします。

４の条例改正案でございますが、条例案と、条例の新旧対照表を２ページ以降につけております。

御説明は以上でございます。どうぞよろしくお願いをいたします。

○三日月広域連合長　ただいま御説明のあった内容について、何か御意見・御質問はございますか。

ないようでしたら、この内容を左様決定することとし、来る11月臨時会への提案に向けて準備を進めることとさせていただきます。

続きまして、「令和8年度 国の施策・予算に対する提案の実施について」を議題とし、こちらもまず事務局から御説明をお願いいたします。

○本部事務局 資料4を御覧ください。国の施策・予算に対する提案は、毎年春と秋に提案書を取りまとめ、提案活動を実施しております。「1 提案の趣旨」として、関西広域連合の事務、並びに分権型社会の実現などを目的に実施しており、提案項目は、春に実施した提案のうち、重要な項目や、その他緊急的かつ重大な項目について実施しております。

「2 新規提案項目」に今回の新たな提案を記載しております。万博の効果を波及させるための取組の支援等としまして、万博で披露された最先端技術等の実装化・産業化までの支援、我が国のスタートアップの国際的なプレゼンスを向上させるための支援、空飛ぶクルマの商用運航実現に向けた支援等の4項目となります。その他の項目として、右側に記載しております、学校空調光熱費への支援をはじめとする7つの項目でございます。

「3 提案の構成」につきましては、春の提案と変更はございません。

「4 今後のスケジュール」は、本日御協議いただいた内容を取りまとめ、11月中を目途に提案活動を行っていきたいと考えております。

また、2ページから5ページは提案項目の一覧です。新規項目については、項目の頭に「新規」と記載しております。また、提案文を修正している項目は「修」と記載しております。

6ページから19ページには、新規項目と提案文を修正した項目を抽出いたしまして、該当箇所に下線を引いております。

説明は以上でございます。

○三日月広域連合長 こちらも万博をやった中で展示されたことの効果を波及させ

るための支援等についても新たに加えて提案していこうということでございますが、何か御意見・御質問はございますか。よろしいですか。

新政権が発足し、様々なことも議論されるようでございますので、また機動的な対応なども併せて、皆様方に相談しながらやっていきたいと思っておりますので、この点も併せて御確認いただければと存じます。

それでは、この内容に沿って準備を進めることとさせていただきます。

続きまして、「第6期広域計画中間案について」を議題とし、まず事務局から御説明をお願いいたします。

○本部事務局　資料5－①を御覧ください。今回、これを中間案の最終版としてお諮りしたいと思っております。これまで連合委員会での協議や、外部有識者で構成する広域計画等推進委員会、また経済界などから幅広く御意見を伺いながら策定を進めてまいりました。

それでは、2ページを御覧ください。別紙1の中間案の概要により説明をさせていただきます。「第1 はじめに」には、計画策定の趣旨などを記載しております。これまで3年間としていた計画期間を中長期的な課題に対応するため、5年間としております。

次にその下、「第3 目指すべき関西の将来像」ですが、項目1の将来像について、住民の暮らしという観点から新たな柱として、2つ目にございます「誰もが豊かさを実感できる安全・安心で持続可能な関西」を追加し、再編しました。また、1つ目の将来像では、これまで国土の双眼構造の実現を掲げておりましたが、次期計画では首都圏とは異なる「もう一つの極」としての関西の実現を掲げることとしています。

続きまして、項目2では、「将来像実現のための5つの力」として、自治力、防災力、文化力、環境力、産業力を新たに掲げております。

次に右側にまいりまして、「第4 第6期広域計画の取組方針」は、「1 広域事務」、「2 政策の企画調整に関する事務」、「3 分権型社会の実現に向けた取組」

について、具体的な取組方針をお示しております。そのうち2の「政策の企画調整に関する事務」では、今年度から新たに取り組んでおります、⑫の広域連携による行財政改革の推進を追加しております。

概要の説明は以上です。

最後に、今後のスケジュールですが、1ページにお戻りください。下段にございますとおり、10月29日から11月末日までの1か月間、本中間案に対するパブリックコメントを実施する予定にしております。その後、12月20日開催予定の広域連合委員会で再度、計画案を御協議いただきまして、1月22日開催予定の広域連合委員会で計画案を確定させていただきたいと考えております。その後、2月28日に開催予定の広域連合議会に議案として提出させていただく予定しております。

事務局からの説明は以上でございます。

○三日月広域連合長 ただいま説明のあった内容、この間も様々な御議論、御参画いただいておりますが、何か御意見・御質問等ございますでしょうか。よろしゅうございますか。

5つの力に沿って、関西をより良くしていこう、より強化していこうということでございますし、我が国のもう一つの極として、首都圏とは異なるもう一つの極を作っていこう、それを担っていこうという、こういった内容で計画作りを進めていきたいと思いますので、この内容、よければ御確認いただいたものと決し、今後の手続に入っていきたいと思います。

それでは続きまして、報告事項に入ります。それぞれの分野、事務局から御説明をいただきます。まず、「災害時におけるドローンによる支援活動に関する協定の締結について」、広域防災局に御説明をお願いいたします。

○広域防災局 資料6を御覧ください。関西広域連合では、全構成団体とともに、一般社団法人日本UAS産業振興協議会との間で、「災害時におけるドローンによる支援活動に関する協定」を10月1日に締結いたしました。なお、同協議会につきまして

は、国内における無人航空機や次世代移動体に係る産業の健全な発展に貢献することを目的として、2014年に設立され、能登半島地震におきましてもドローン運用に關しまして、国と連携して総括的な支援を実施をした実績がございます。締結の背景につきましては、昨年、広域防災局が実施をいたしました能登半島地震を踏まえたアンケート及び民間企業との連携に関するアンケートにおきまして、構成団体よりドローンを活用した被害情報の収集・共有、孤立集落への物資輸送、被災状況の確認などの手段として、関西広域連合に対しドローン保有事業者との協定を希望する旨の回答が多く寄せられたことから、これらを踏まえまして、今回締結をさせていただいたものがあります。本協定の締結によりまして、関西広域連合域内及び各構成団体の管内において災害が発生し、または発生するおそれがある場合に、ドローンによる調査、情報収集及び物資の運搬や災害対策本部内におきます他機関との航空運用調整に関する支援などにつきまして要請を行うことが可能となります。なお、奈良県では既に今年、同協議会との間で協定を締結しておりますが、当該協定の効力を妨げるものではございません。

説明につきましては以上でございます。

○三日月広域連合長 この内容について、何か御意見・御質問はございますか。ちなみに、この日本UAS産業振興協議会というのは、どれぐらいの企業様等が所属されている団体なのですか。

○広域防災局 会員につきましては、今年の9月末現在で2万5,555で、詳細についてはまだ非公開になっておりますが、全国的な規模の大きな組織です。

○三日月広域連合長 ということでございますので、情報共有できるものを共有して、それぞれの構成府県市と、こういった団体や、また所属される企業様との連携、いざという時のために備えとして作っていただければと思いますので、よろしく願いをいたします。

続きまして、関西広域連合とタイ国政府観光庁との間で行いましたシンポジウム

の開催結果につきまして、鈴木副委員から御説明をお願いいたします。

○鈴木副委員（京都府） 資料7を御覧ください。広域連合とタイ国政府の観光庁との持続可能な観光振興に向けたシンポジウムの開催について御報告をいたします。

去る9月24日に、タイ国政府観光庁から副総裁をお招きをしてシンポジウムを開催いたしました。本件につきましては、昨年の8月にタイ国政府の観光庁との間で関西広域連合が「観光交流の促進に係る趣意書」を締結いたしまして、今後持続性の高い観光の推進に関しまして、取引事例やノウハウの共有を通じて、関西における観光振興の促進を図ることを目的に開催したものでございます。シンポジウムでは、タイ国政府の観光庁の副総裁からは、タイにおける観光推進の歩みについて御報告いただいた後、関西におきまして、ただいま持続可能な観光振興に取り組んでおられます3つの団体からも報告をさせていただきました。当日は、関西広域連合管内の自治体、更にDMO、観光関連事業者など90名の方々に御参加をいただきました。参加者からは、他国の観光の状況について学べる貴重な機会だったなどの感想も寄せられておりまして、今後、持続可能な観光の振興に向けまして、新たな視点を提供することができたのではないかなと考えております。今後ともタイとの連携を更に深めまして、観光振興に向けたノウハウの共有、観光プロモーションの相互協力などを通じまして、関西における持続可能な観光振興を進めてまいりたいと考えております。

○三日月広域連合長 ありがとうございます。何か御意見・御質問はございますか。よろしゅうございますか。

それでは以上、御報告いただいたものとし、続きまして、「カーボンニュートラル先進技術フォーラムの開催について」、こちらは広域産業振興局から御説明をお願いいたします。

○広域産業振興局 資料8を御覧ください。大阪・関西万博において、ペロブスカイト太陽電池や水素関連技術など、カーボンニュートラルに関する様々な技術が披露されました。関西の成長に向けては、こうした技術を万博での披露に留めることなく、

域内企業による製品化、量産化につなげていくことが求められています。広域産業振興局におきましては、関西の優位性を生かしたイノベーション創出環境、機能強化に向けた取組の一環として、水素・燃料電池、蓄電池などのカーボンニュートラルに資する技術をテーマに、域内企業との産学連携による製品開発や、企業間連携によるビジネス機会の創出を促進することを目的としたフォーラムを開催します。

日時は、記載のとおり令和7年12月2日、場所は大阪駅に近い大阪工業大学梅田キャンパスOIT梅田タワーで、またウェブで同時配信を行う予定です。

特別講演といたしまして、株式会社大林組 環境経営統括室部長 中込昭彦氏、同社 夢洲開発推進本部夢洲まちづくり推進室課長、繪本啓太氏から「今やるべき、建設業界での脱炭素・循環社会実現に向けた取り組み＋万博での実践報告」と題しまして、建設業界における環境問題についての課題と同社の脱炭素化に向けた取組等について、大阪・関西万博での実践報告を交えながら御講演をいただく予定です。

研究成果・先進技術発表では、構成府県市を通じて選出いただいた域内の大学や企業等の研究者から、最新の研究成果や先進事例を御紹介いただきます。

講演終了後には、研究者と参加者との交流会によるマッチングの場も設けます。カーボンニュートラルに関連する事業への参入や、自社技術の新たな展開をお考えの企業の皆様方など、多くの方々に御参加いただきたいと考えております。域内企業への御周知をよろしくお願いいたします。

なお、次ページに記載のとおり、関西広域連合が11月から展開する「KANSAI脱炭素months」の関連イベントとして一体的にPRしてまいります。

説明は以上でございます。

○三日月広域連合長 ありがとうございます。大変興味深い、またこれからつながるような様々な分野についての御発表や御議論も行われるということでございますので、域内企業の皆様方への御案内等よろしくお願いいたします。

何か御意見・御質問はございますか。

ないようであれば、御確認いただいたものといたします。

それでは続きまして、「関西広域連合管内のドクターヘリの運航について」、広域医療局からまず御説明をお願いいたします。

○広域医療局　資料9を御覧ください。「1 運航停止スケジュール」でございます。11月につきましても整備士不足は解消されず、また、同業他社による運航も模索しておりましたが、調整がつかなかったため、引き続き10月と同程度の1機当たり4日から6日程度の運航を停止することになりました。各ヘリの運航スケジュールについては表のとおりを予定しております。なお本日、広域連合委員会後にプレスリリースを行います。

次に「2 公募型プロポーザルの状況等」についてでございます。10月3日に提案締切りとしておりましたところ、ヒラタ学園以外の1社から1機について提案がございました。事務局として受託機数を増やせないか提案企業へ打診しておりましたが、現時点においては4機全ての受託は難しい状況となっております。

次に「3 対応」についてでございます。10月8日には、三日月広域連合長から中谷防衛大臣へ、人材確保についての緊急要望をしていただきました。また10月14日に、広域医療担当委員として本県の後藤田知事がドクターヘリ推進議員連盟の田村衆議院議員、厚生労働省の仁木副大臣、国土交通省の宮澤航空局長に対しまして、省庁横断による積極的な支援等の緊急要望を行いました。皆様、全国的な問題であり、対応を進めるとのことでございます。

「(2) 今後の対応」といたしまして、短期的には引き続きヒラタ学園に対し、安定した運航体制の確保を強く申入れをするとともに、国の協力を得ながら、再度、同業他社へ参入を依頼いたします。加えて、構成府県基地病院で構成する対策チームを立ち上げまして、厚生労働省、国土交通省にも参加いただきながら、今後の対応を進めてまいります。

次に、中長期的な対応といたしまして、ドクターヘリの運航停止中に緊急事態が

発生した場合の自衛隊ヘリの活用等、国全体での総合的なバックアップ体制のあり方や、今後航空業界全体で不足が見込まれております操縦士や整備士等の人材育成や確保、また、運航体制や運航従事者の経験資格に係る基準等につきまして、関係省庁へ対応を求めてまいります。

広域医療局からの説明は以上でございます。よろしくお願い申し上げます。

○三日月広域連合長 いろいろと御心配いただいております、このドクターヘリの運航について、11月も1機当たり4日から6日の運航停止が見込まれるということでございまして、それを受けた対応等について御説明がございました。何か御意見や御質問等はございますか。

○志田副委員（徳島県） 今説明申し上げましたように、この対策チームを速やかに立ち上げまして、一つは、ドクヘリの運航には機材と人繰り、両面がありますので、そのあたりを1つの航空会社で無理であれば、会社間連携で対応できないか、そのあたりを国の協力も得ながら働きかけていきたいと思っております。それと併せて、カバー体制の強化でどういうところを拡充できるか、そのあたりも対策チームにおいて検討してまいりたいと思います。

○三日月広域連合長 ありがとうございます。会社間連携、この機材と人、人といってもこれ操縦士だけではなくて、整備士等も必要だということでございますので、その模索とカバー体制ですね、こういったことについてもしっかりと体制が取れるように検討していくということでございます。

どうぞ、齋藤委員。

○齋藤委員 ドクターヘリに関しましては、後藤田委員をはじめ、徳島県、そして三日月広域連合長にも要望等をいただいたということを改めて感謝を申し上げたいと思います。これから事業者さんとの公募プロポーザルを踏まえた対応が大事な局面になってくると思います。関西広域連合としての対応に加えまして、兵庫県でも2機の運営をしていますけれども、同学園との契約が今年度末で満了になります。特に豊岡

病院、但馬地域ですけれども、基地局として運営しているドクターヘリは、兵庫県だけではなくて、京都府の北部と鳥取県の東部を中心とした広大なエリアをカバーしています、山間部が多い地域ですから、医療機関との連携として大変大事な存在で、令和6年度でも1,500件を超える実績が上っています。現行の一部の数日間の休止でも、リスクが大変高い状況になっていますので、兵庫県としても契約に向けて努力しますけれども、是非対策チームで安定的な運航に向けまして、事業者さんとの協議、それから国に対しましても、整備士が必ず常駐しなければいけないという規制緩和も含めて、是非これは全国知事会でもしっかり議論していただきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

○三日月広域連合長 他に何かございますか。よろしゅうございますか。

大変重要な課題だと思いますし、短期、緊急でやらなければいけないことと、中長期、抜本的にやらなければいけないことと、そして関西広域連合それぞれの府県市で協力しながらやらなければいけないことと、国や関係機関を巻き込んで、民間にも働きかけてやらなければいけないことが多々あると思いますので、広域医療局を中心としながら安定した運航体制の確保に向けて、皆で力を合わせて取り組んでいくことにしたいと思いますので、よろしくお願いをいたします。また随時動きがありましたら、御報告させていただきたいと思います。

続きまして、「新たな広域自治・行政のあり方研究会」の第1回会議を開催いたしましたので、その結果等につきまして、まず事務局から御報告をお願いいたします。

○本部事務局 資料10を御覧ください。関西広域連合の今後のあるべき姿や担うべき役割等について検討するため設置いたしました「新たな広域自治・行政のあり方研究会」の第1回会議を10月15日、滋賀県の危機管理センターにおいて開催いたしました。当日は三日月広域連合長、西脇副広域連合長、久元副広域連合長と5名のアドバイザーの皆様にオンラインを含めて御出席をいただき、ファシリテーターの同志社大学 新川先生の進行により、研究会の議論の方向性等をテーマに意見交換を行いました。

た。その際、出された御意見をもとに、次回以降、「研究会の着地点」や「持つべき視点・視座」など、記載しております①から⑤の観点を踏まえて議論を進めていくことといたしました。次回の第2回会議につきましては、令和8年2月に開催の予定で現在調整中でございます。なお、2ページ目は参考として、研究会の名簿を添付してございます。第1回の会議の資料につきましては、関西広域連合のホームページに掲載をしており、会議録につきましても準備ができ次第、ホームページに掲載の予定でございますので、詳細につきましては、こちらで御確認をお願いいたします。

事務局からの説明は以上でございます。

○三日月広域連合長 御案内のとおり、関西広域連合は設立から15年が経過いたします。これまで歩んできたことを再確認しながら、これから目指す方向性等につきまして議論・研究をしようという研究会を立ち上げ、2ページ目の下段に記載のとおり、アドバイザーの方々にも御参画をいただいて議論を始めました。1ページ目に①から⑤として記載しておりますとおり、こういったところを着地点にするのかということですか、「もう一つの極」を目指していこうということを含め、これから関西広域連合がこういった方向を目指していくのかということ、当然、国・府県・市町村との関係の再整理も必要だということなど、こういった論点・観点をもとに、これから議論・研究を進めていきたいと思っておりますので、それぞれ府県市の知事・市長の皆様方、また事務局の皆様方、積極的な御参画をよろしくお願いいたします。国でも今、副首都構想をはじめ、この国全体の大きな改革についても議論が本格化していますので、そういったことも見ながら、この研究会を進めていきたいと思います。

それでは、御確認いただいたものとし、続きまして、「関西広域連合議会臨時会の開催」につきましては、記載の資料11を御覧いただければと存じます。また、それ以外にも、資料配布として様々資料をつけておりますので、この点も併せて御確認いただければと存じます。

何かこれまでのところで御意見や御質問等はございますでしょうか、それ以外の

ことも含めまして。よろしゅうございますか。

それでしたら、ここまで御確認いただいたものとし、次に、「関西広域
リージョン連携宣言について」を議題とし、こちらには関西経済連合会の真鍋副会長
にも御臨席をいただいて、一緒に議論を進めていきたいと思います。既に皆様方に御
案内のとおり、9月に政府の「新しい地方経済・生活環境創生本部」において、都道
府県域を越えた産業や観光などの振興に向けた取組を「広域リージョン連携」と位置
付けて、交付金等で支援する方針が示されております。全国に先駆けて、まさに今、
全国でも唯一の府県を越えた広域自治体である関西広域連合として、この枠組みを活
用して、より一層官民による広域連携を強化していきたいと考えているところでござ
います。つきましては、事前にお配りしております宣言案に記載の内容で、関西広域
リージョンとして、関西経済連合会、そして関西観光本部、関西MaaS協議会とともに
広域リージョン連携宣言を行って、6つの分野に官民連携して取り組んでいきたいと
思いますが、皆様方、いかがでございましょうか。よろしゅうございますか。内容は
お手元に、データ並びに紙で配付をさせていただいております。それぞれ連携して取
り組む内容、そして構成する団体等、また目指すべき姿などについても確認をし、こ
の宣言の中に入れておりますので、よろしく願いいたします。各構成府県市ととも
に関西広域連合は名を連ねまして、関西経済連合会、関西観光本部、関西MaaS協議会
と関西広域リージョン連携宣言を行うことといたします。何か御意見や御決意、御質
問等ございますでしょうか。

山下委員、何かありそうですけど、高市総理も誕生されましたので、何か一言。

○山下委員　今回の自民と維新の連立政権の中で副首都法案については、来年の通
常国会での成立を目指すというような文言が入ったということでございまして、それ
とこの関西広域リージョン連携の取組がどういうふうに関連してくるのかは、今のと
ころまだ明らかではございませんけれども、関西が我が国の「もう一つの極」となる
ということに関しては、今回の副首都構想はそれに資するものではないかなと考えて

おりますので、何か相乗効果のようなものが発揮できればと思っております。

○三日月広域連合長 ありがとうございます。

齋藤委員、どうぞ。

○齋藤委員 ありがとうございます。関西広域リージョン宣言ということで、これからやはり関西全体も万博が終わって様々な形で成長・発展を遂げていくということが大事だと考えておりますし、特に防災庁の設置という議論もある中で、関西にも防災機能を高めていくということと、観光や産業の中で、ここには書いていないですけども、農林水産業というものも大事な関西における産業の一つであるということと、食料安全保障という観点もありますし、地域内で食料をしっかりと自給自足しながら地産地消をしていくということも多様な地域がある関西において、都市だけではないという中において、地域コミュニティや自然を守っていくという意味でも大事だと思いますので、そういった面でも、この広域リージョン宣言に沿って、しっかり取り組んでいくことが大事だと思っています。

○三日月広域連合長 ありがとうございます。

ほかに何かございますでしょうか。

特にないようでしたら、この関西広域リージョン連携宣言、この内容で宣言を行うこととさせていただきます。今日、関西経済連合会の真鍋副会長にも御臨席いただいておりますので、一言御挨拶をいただければと存じます。

○関西経済連合会 真鍋副会長 関西広域リージョン連携宣言の構成団体であります関経連を代表しまして、一言申し上げたいと思います。関西はかねてより、官民一体で府県を越えた広域行政に取り組んできた地域でございまして、今回の広域リージョン連携の政策は、その強い後押しになると考えておるところでございます。この政策を契機といたしまして、全国各地でも自治体と経済団体の広域連携の取組が打ち出されていくということを期待しているところでございます。関西は広域行政の先鞭をつけてきた地域としまして、これまでの蓄積がございまして、これを生かし、国の御支

援もいただきながら具体的取組を充実させて、広域リージョン連携の全国モデルとなるということをしっかりと考えていければと思っております。関経連といたしまして、関西広域連合と協力いたしまして、今後ともしっかりと継続して取り組んでまいりたいと考えております。

以上でございます。

○三日月広域連合長 ありがとうございます。官民で力を合わせて、こういった広域行政を作り、進めてきましたし、大阪・関西万博も皆で力を合わせて盛り上げて実施してきました。そういった経験を生かして、まさに府県市を越えて、政令市も含めて、広域リージョン連携の全国のモデルとなれるように取組をつくり、進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

今日はグランヴィア和歌山でお世話になっております。ありがとうございます。
以上で、このセッションの確認とさせていただきます。

特に何か御意見・御質問がないようでしたら、記者会見の後、フォトセッションを予定させていただいております。特にないようでしたら、これで第182回の関西広域連合委員会を終了とさせていただきます。御協力ありがとうございました。

○本部事務局 ありがとうございました。

続きまして、記者会見に移ります。質問をお受けさせていただきますので、所属、お名前を明らかにされてから御質問いただきますようお願いいたします。

それでは御質問のある方、挙手をお願いしたいと存じます。よろしいですか、では、お願いいたします。

○産経新聞 産経新聞の永山と申します。よろしくお願いいたします。

関西パビリオンのレガシー検証の中で、ゲートウェイ機能の検証をちゃんとしていくということですが、いつ頃をめどにどのような形で結果をまとめていくのか、またゲートウェイ機能というのはどのような定義で考えているのかというのをお聞かせください。

○三日月広域連合長　　内容、詳しくはまだこれからのところもあるのですが、私ども大阪・関西万博開催に当たり、関西パビリオンを出展するに当たり、このゲートウェイ機能を持ち、そして広めていこうということを試行してまいりましたので、どれぐらいの方々がこのゲートウェイ機能を受けて動かれたのかということについて、各府県市でもそれぞれ考えられているでしょうから、そういったものを取りまとめて御報告、もしくは発表していきたいなと思っております。いつ頃をめぐりにということについては、まだ具体的なスケジュールを調整協議中ですので、そのあたりがまたまとまれば、皆様方に御報告したいと思います。あまり時間をかけ過ぎてもいけないと思っておりますので、年内でどこまで行けるのか、そして年度内にどこまで御報告できるのかというめどは持ちながら準備、議論していきたいと思っております。

○産経新聞　　ありがとうございます。

○本部事務局　　では、ほかに御質問はございますか。

ないようでしたら、記者会見はここまでで終了させていただきます。

閉会　１１時４０分